

第1回 フィンランド語はどんな言葉か

話者人口：約 500 万人

- フィンランドの国語。
- スウェーデンに約 30 万人、その他、ノルウェー、フィンランド東部国境沿いのロシア・カレリア地方、エストニアの一部地域等にもフィンランド語の話者がいる。

系統：ウラル語族

- ヨーロッパの大部分の言語はインド・ヨーロッパ語族に属しているが、フィンランド語、エストニア語、そしてハンガリー語は、違う語族であるウラル語族に属している。
- フィンランド語とエストニア語はとても近い関係にある。



特徴：典型的な膠着語

- 表記はラテン文字を使用。
- 表記と発音がほぼ一対一に対応している。
- 子音に対して母音の割合が高く、日本人には発音が容易。
- 複合語が作りやすく、長い単語が多い。
- 語形変化が多い。
- 格の数が多い(14 格)。
- 語順は基本的に英語と同じ SVO だが、日本語と同じ語順になる場合もある。

フィンランド語は、東隣のロシア語とも西隣のスウェーデン語とも全く異なっています。隣接する地域では似た言語が話されているのが普通なので、これは大変奇妙なことです。このような現象を言語学では「言語の島」と呼んでいます。実は、フィンランド語は、ロシア領内のウラル山脈近辺やボルガ川流域で話されている言語とつながりがあり、ウラル語族という呼称もそこに由来しています。それにしても、フィンランドとウラル山脈ではだいぶ距離があります。今のフィンランドに当たる地で、フィンランド語が話されるようになった経緯については、未だによくわかりません。